

いただきます



昨年「食事の言葉」が変わりました。

ごちそうさま・みなさまのおかげ

「ごちそうさま」の馳走とは、辞書を引くと、「馳（はせる＝馬で速く走る）」、「走（はしる）」とあります。いずれも「はしる」という意味です。つまり、この「ごちそうさま」と言う言葉からは、「この料理が私のところに届くまでには、直接・間接にどれほどたくさんの方が走り回ってご苦労くださったことでしょうか」と、「みなさまのおかげ」に想いをはせ、感謝し、労をねぎらおうとする、先人の深い心が感じられますね。

多くのいのち

昨今、そのようなご苦労、労働に対してはお金を払っているのだから「いただきます」と言わなくて良いと教える親がいると聞きました。でも私たちは、労働に対してお金を払っても、「生命そのもの」に対しては一銭も払っていません。生きるためには、他のいのちを奪わざるをえませんが、人間である限り「ごめんなさい」という心を忘れてはならないと思います。

口蹄疫（こうていえき）

昨年は鳥インフルエンザ、今年は口蹄疫でたくさんの生命が「殺処分」されました。処分にあたっては総理府（現内閣府）から

もったいない



しるし



ごちそうさま

告示が出ていて、「生命の尊厳性を尊重することを理念として、その動物に苦痛を与えない方法によるよう努める」とあります。

私は、殺すのに生命の尊厳性もへったくれもないだろうと思ったのですが、殺さざるをえない場合を考えると、とても大事なことに思えてきました。（口蹄疫に関しては、「殺す必要はなかった」という議論もあります。）

「しるし」を生きる

浄土真宗は、出家ではなく在家の教えです。親鸞聖人は、「さるべき業縁のもよほさばいかなるふるまひもすべし（置かれた環境によって人間はなんでもしてしまう）」とおっしゃって、結婚してはだめだとか、殺生をしてはだめだとかおっしゃいませんでした。しかし親鸞さまは、「仏法を学べば前と同じではない、何か「しるし」があるはずだ」と言っておられます。

どうかしたいがどうにもならない、生きる矛盾を抱えて両手を挙げざるをえない状況に置かれても、人間として心を大切に生きてゆく生き方を、親鸞さまは教えて下さっているように思います。皆さん合掌しましょう。

※食中毒防止のため、早めにお召し上がり下さい。

西教寺進徳仏教婦人会  
私たちといっしょにお聴聞しましょう

ありがとう・ごめんなさい

【食後のことば】  
尊いおめぐみをおいしくいただき、  
ますますご恩報謝につとめます。  
おかげで、ごちそうさまでした。

合掌

【食前のことば】  
多くのいのちと、みなさまのおかげにより、  
このごちそうをめぐまれました。  
深くご恩を喜び、ありがたくいただきます。